

しん じ こ
尖道湖

ヨシの

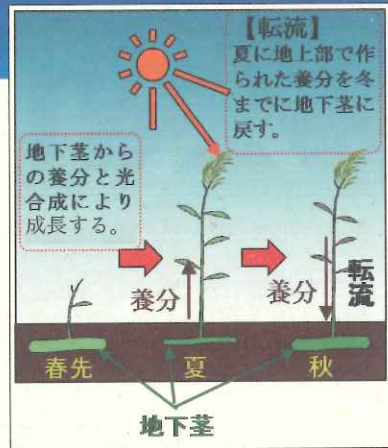
ほ ぜん かつ よう
保全と活用
について



しん し こ みず かん きょう かい ぜん きょう ぎ かい
尖道湖水環境改善協議会

ヨシってどんな植物？

- ヨシは湖沼や河川の水辺、湿気が多くじめじめした場所に見られるイネ科の多年生植物です。盛夏によく成長し、高さは2mほどにもなる、とても背の高い植物です。
- 8月～10月ごろに茎の先に穂のような花を咲かせ、その後11月～3月には枯れますが、地下に広がった地下茎は冬を越え春にはそこから新芽がでてきます。



	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
成長期		← 7月のおわり～8月頃がいちばん成長するとき →								地上部は1年で枯れて、2～3年枯れたままに残る		
開花・結実期		← 前の年の秋に地下茎にためておいた養分をつかって地上部が成長する →								地上部の養分を地下茎にためて、地上部は枯れる		
休眠期	→										←	



【4月：新芽の頃】



【8月：最盛期】



【11月：転流期】



【2月：休眠期】

ヨシ帯が穴道湖にあると…

- 水辺のヨシなどの植物帯は、様々な生き物の繁殖や生息に重要な場所になっています。
- ヨシがたくさん集まっているところでは、オオジュリンやオオヨシキリ、ヨシゴイなどが巣を作り繁殖の場として利用したり、ツバメのねぐら、ナゴヤサナエの羽化等でも利用されています。
- 水中のヨシは、小魚などが大きな魚、鳥や大波から身を守る隠れ家になったり、産卵場などにもなります。
- また水辺の窒素やリンを栄養として吸収することで水をきれいにする働きがあるとされています。



ヨシ帯の再生と保全

ヨシ帯を再生させるために、平成13年から25年に宍道湖岸に沿岸の小学生などが参加してヨシを植栽しました。現在は、植栽したしたヨシの管理のために、定期的な刈り取りを主体にした保全活動に取り組んでいます。



積み上がったヨシの束と積み込みの様子



ボランティアによるヨシ刈り取りの様子

ヨシの刈り取りは、冬になって枯れたヨシの湖岸への滞留や、湖の中で腐ってしまうことを未然に防ぐことで、水質浄化につながる取り組みです。宍道湖の美しい自然を守ろうと、多くの企業や団体の皆様にご参加いただいています。冬季の渡り鳥の生息環境を守るため、専門家のアドバイスを受け、時期や場所によっては草刈り機の使用を控え手作業で刈り取っています。

◎全国的なヨシの活用事例

イベント等での活用



ヨシでつくったとんど



ヨシのたいまつ

ヨシが加工され活用されているもの



葺葺 (よしず)



ヨシの屋根



ヨシを使った紙製品



ヨシ笛

しんじこ りかつようじれい しょうがい
宍道湖ヨシの利活用事例をご紹介します

くさおさえ (マルチング)
草抑え (マルチング)



ほくさい さいばん
 植栽まわりでの利用 (裁断ヨシ)



やさいたけ りよう しょくごう
 野菜畑での利用 (無加工ヨシ)



じようしき さいばん
 自走式カッターによる裁断

かみ かこう
紙に加工



たいひか
堆肥化



かこう たいげんかい
よしずやコースターに加工する体験会



宍道湖水環境改善協議会

事務局 松江市環境保全課 〒690-0826 松江市学園南一丁目20-43 TEL: 0852-55-5271 FAX: 0852-55-5497
 HP: <http://www.shinjiko-dandan.jp/> E-mail: k-hozen@city.matsue.lg.jp

※このリーフレットは、宍道湖産ヨシパルプ30%配合紙を使っています。